



石造物に先人を思う!!



平塚新田集会所の石造物

10月、平塚新田地内でコスモス祭が開催されました。小学生の絵や中学生制作の看板、里山の生き物の写真なども掲示されました。ご協力ありがとうございました。(裏面参照)さて、今回は、平塚新田集会所に遺された石造物について紹介します。

吉岡地区には、江戸時代、5つの村がありました。万吉村、村岡村、和田村(楊井)は、武士が誕生した平安時代からの歴史があります。今から1,000年以上前です。原新田村と平塚新田村は、今から300年程前の江戸時代初・中期に開拓された新しい村です。両地とも長らく近隣から「捨地」(すてち:農耕に適さないと見捨てられた荒地)でした。平塚新田の地は、おそらく古(いにしえ)の荒川の流れてによって作られた石原だったのではないかと推測します。江戸時代になって、戦乱の世が終わり、農具や土木技術も発達し、各地で新田開発が進められました。平塚新田の地は、万吉村の分郷として開拓されました。先人は、何十年もかけて石を拾い、起伏の地を平坦にし、水を引き、田畑を創り上げていきました。江戸時代後期の地誌『新編武蔵風土記稿』に依れば、「当村は初め無高(むだか:収穫なし)だったが、享保年間(きょうほう:江戸時代中期、7代将軍吉宗の頃、およそ300年前)に検地され、貢税(ぐぜい:年貢を納める)が定められた」と記載されています。食うのが精一杯の生活、貧しさ故の協力=結(ゆい:集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の制度)、神仏への祈りの深さ。そして、新天地を創り上げ明日を夢見るエネルギー。先人達の汗水の浸みた大地に私達はいます。開村当時から、現在の集会所の地に『薬師堂』がありました。前出の地誌に依れば、「薬師堂は、自源庵(じげんあん)と言い、村内の古塚(ふるづか:こふん)から出土した矢じりを納めている」と記されています。それを物語る石造物が集会所に遺(のこ)されています。薬師堂のご本尊薬師如来(やくしにょらい)は、人々の病苦を救う仏様です。ここに村人が集い、祈りの場であると共に、学びの場であり、憩い(いこい)の場でもあったと思われます。平塚の地名の由来も、ここにあるのかもしれませんが。

この地に遺された石造物は11基です。その内訳は、庚申(こうしん)塔、二十二夜待供養塔3、聖徳太子供養塔、馬頭観音塔、廻国塔、自源・他2の僧侶の墓碑3、戦災復興集会所再建祈念碑です。ここでは、二十二夜待について説明します。旧暦二十二日の夜、村の女性が集い、月を拝み飲食を共にした行事です。これこそ、祈りと互助(ピアカウンセリング)と憩い(いこい)です。

里山の11月の活動は、11月10日(日)に行われました。ヤマツツジ植栽の下準備として間伐した八幡神社北側斜面林の中低木を坂下へ降ろす作業を行いました。自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、個人ボランティアなど20数名程の参加者が、斜面の足場に苦戦しながら汗を流しました。

また、吉中生徒会は、『クリーンアップ作戦』地域のゴミ拾いを行いました。お疲れ様でした。



吉中クリーンアップ作戦!!



女性陣は手渡して!



男性陣はヨイショと担いで!

次回活動日

12月8日(日) 9:00~

里山整備・植栽予定(吉中駐車場集合)



満開のコスモス畑



吉中文芸部制作の看板



吉小1.2年生のコスモスの絵



寺山氏撮影 吉岡里山の鳥

ご協力 ありがとう
ございました！！